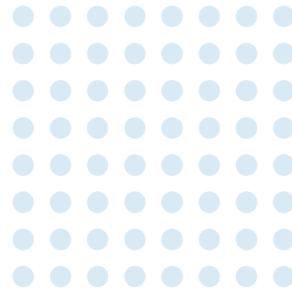


オープンデータ研修テキスト

ワークショップカタログ集

デジタル庁



※本書は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) に従って利用が可能です

改版履歴

版数	日付	内容
1.0版	2023年1月	初版

目次

はじめに P04-05

オープンデータ作成ワークショップ

ウィキペディアタウン P06-12

マッピングパーティ P13-18

オープンデータ活用ワークショップ

アイデアソン P19-23

5374.jp P24-28

Glide P29-33

はじめに

本書の位置づけ

- 本書は、オープンデータ利活用推進にあたり外部と協働したワークショップを実施したい地方公共団体向けに、ワークショップ事例を紹介したカタログ集です。
- 本書は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) に従ってご利用が可能です。
- 本書の内容を二次利用する場合は、下のガイドに従ってクレジット表記をしてください。初級編にはクレジット表記の例も掲載していますので参考にしてください。

<https://creativecommons.jp/faq/#a7>

はじめに

本書の位置づけ

本書は、全4編の「オープンデータ研修」テキストの内、以下のとおりの位置づけです。

種類	対象	概要
お手軽導入編	オープンデータに未取組の地方公共団体の職員もしくはオープンデータを初めて担当する職員	オープンデータの制度上の位置づけを理解した上で、オープンデータへの取組をまずやってみる手順を解説したテキスト
初級編	取組はしているものの、データセットが増えない、更新が無い等の継続に課題を抱える地方公共団体の職員	オープンデータの背景や概念、取り組む上での課題や好事例等を理解の上、データセット増加やデータ更新を全庁的に継続していくための基本的な知識を網羅した入門テキスト
中級編	既に取組をしていて、更にオープンデータの利活用を進めたい地方公共団体	日本の目指す未来社会とオープンデータの関連を理解するとともに、更にオープンデータの利活用を促進するために必要なデータに関する基礎知識等を理解するテキスト
ワークショップカタログ集	利活用の方法として具体的なワークショップを実施したい地方公共団体	オープンデータサポート団体等の外部と協働しながらオープンデータの利活用を進めていくにあたり、ワークショップ事例を知るためのカタログ集

ウィキペディアタウン

キーワード

住民主体

地域アーカイブ

官民共創

機運醸成

ウィキペディアタウン（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの概要

ウィキペディアタウンとは、日本においては**ウィキペディアに記事を掲載することを目的としたイベント**を指すことが多く、まち歩きやウィキペディアへの書き込みルールの解説等が行われた後、書き込みワークショップが行われるケースが多いです。

2013年、神奈川県横浜市でウィキペディアタウンを企画・実施したことを皮切りに、全国各地で実施されています。

元来のウィキペディアタウンとは、2012年イギリスウェールズにあるまち「モンマス」が起源であり、まちにある「文化・観光資産」に関する情報をウィキペディアを利用してアーカイブを行ったことに由来し、施設に二次元バーコードを貼り付け、携帯端末等からのアクセスを容易にする取組のことを指します。



ウィキペディアタウン（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの目的・ねらい

本ワークショップの主な目的や狙いは以下のとおりです。

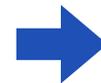
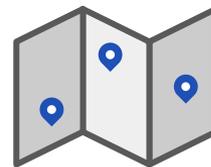
💡 住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、まち歩きをする中で地域の再発見をしたり、地域資料を利用した文献調査によって地域理解を深めることで、住民主体のまちづくりへつなげる効果を狙います。



💡 オープンデータ化による 新たな価値創造

成果をオープンデータ化することにより、観光や地域ガイドアプリから二次利用されやすくなるため、新しい地域の価値の創造につながります。



準備のポイント（1/3）

ウィキペディアの基本原則を予め理解する

ウィキペディアには運用に係る**5つの基本原則**が以下のとおり定められています。予めこれらを把握・理解の上、準備を進める必要があります。

ウィキペディアの基本原則：五本の柱※

1. ウィキペディアは百科事典です。
2. ウィキペディアは中立的な観点に基づきます。
3. ウィキペディアの利用はフリーで、誰でも編集が可能です。
4. ウィキペディアには行動規範があります。
5. 上の4つの原則の他には、ウィキペディアには、**確固としたルールはありません。**



※Wikipedia:五本の柱 @ウィキペディア [クリエイティブ・コモンズ・ライセンス](https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia::五本の柱) (表示-継承 3.0 非移植)
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia::五本の柱>)

準備のポイント（2/3）

開催体制・テーマの検討

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。前頁のウィキペディアの基本原則を踏まえ、経験者との連携も検討します。
- 開催目的や書き込みテーマを検討します。

✓ **経験者や図書館等との連携** ウィキペディアの編集経験者との協力体制を検討するとともに、地域情報の文献調査のため図書館等との連携も検討します。

✓ **テーマの選定・場所調査** どのような目的でまち歩きを行い、何を書き込むかというテーマを事前に選定し、どの場所が合うかを調査します。

準備のポイント（3/3）

ワークショップ設計・環境準備

- まち歩きの間を考慮しながら、全体的なワークショップの流れや時間配分を検討します。
- ウィキペディア投稿のための環境（アカウント、パソコン、Wi-Fi等）を準備します。

✓ **会場や対象地域の選定** まち歩きが中心のため、総合的な移動時間や配車等も考慮の上、会場や地域を選定します。

✓ **環境の準備** ウィキペディアに記事を作成・投稿するためには専用のアカウントが必要なため、事前に作成しておくこと当日がスムーズです。パソコンやWi-Fi環境も手配します。

✓ **その他留意点** まち歩きに際してイベント保険に加入する等も検討します。

ウィキペディアタウン（オープンデータ作成ワークショップ）

タイムテーブル例

午前から開始する場合の一例を記載します。

09:50 会場準備、受付開始

10:00 開会、趣旨説明

10:30 インプットトーク（例：まちの歴史等）

11:00 ウィキペディアに関する説明や資料の説明等

12:00 懇親も兼ねて昼食

13:00 出発・フィールドワーク(例：学芸員に話を聞く・写真撮影・見学等)

14:30 全チームの戻りを確認、休憩、文献調査・ウィキペディアの編集

16:00 成果発表

16:30 クロージング・感想等

17:00 解散、会場片付け、文献返却



※1



※2



※3



※4

マッピングパーティ

キーワード

住民主体

地域アーカイブ

官民共創

機運醸成

マッピングパーティ（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの概要

マッピングパーティとは、災害時に使える施設や避難経路、バリアフリー、観光スポット等特定のテーマに沿った情報を実際にまち歩きをして集め、「**オープンストリートマップ（OpenStreetMap : OSM）**」に地図情報を書き込むイベントのことです。

オープンストリートマップとは、オープンライセンスの下で、誰でも自由に利用できるだけでなく、地図を共同作成できるものです。

マッピングパーティは、2004年にイギリスで始まり、日本を含む世界各地に広がります。



マッピングパーティ（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの目的・ねらい

本ワークショップの主な目的や狙いは以下のとおりです。

住民主体のまちづくりへ

テーマにそった地域の情報をまち歩きして集めることで、地域課題の発見や新しい観光スポット等の発見を促したり、地図作りをしながらまちに詳しくなることで、災害時に安全なルートを案内できる人や地域の魅力を発信する人の育成を狙います。

オープンデータ化による 新たな価値創造・災害対応

成果をオープンデータとして提供することにより、観光や地域ガイドアプリから二次利用されやすくなるため、新しい地域の価値の創造につながります。また、平時の地図をオープンデータ化しておくことで災害時に比べることができ、迅速な被害の把握や避難ルートの作成等に役立ちます。

準備のポイント（1/2）

開催体制・テーマの検討

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。マッピングパーティ経験者等との連携も検討します。
- 開催目的や書き込みテーマを検討します。

✓ 経験者との連携

マッピングパーティ経験者や、オープンストリートマップを編集したことがある経験者との協力体制を検討します。

✓ テーマの選定・ 場所調査

どのような目的でまち歩きを行い、何を書き込むかというテーマを事前に選定し、どの場所が合うかを検討します。

準備のポイント（2/2）

ワークショップ設計・環境準備

- まち歩きの間を考慮しながら、全体的なワークショップの流れや時間配分を検討します。
- オープンストリートマップ編集のための環境（アカウント、ツール、パソコン、Wi-Fi等）を準備します。

✓ **会場や対象地域の選定** まち歩きが中心のため、総合的な移動時間や配車等も考慮の上、会場や地域を選定します。

✓ **環境の準備** オープンストリートマップ編集には、アカウント登録、および用途に応じた地図編集ツールが必要なため、事前に準備をしておくとう日がスムーズです。パソコンやWi-Fi環境も手配します。

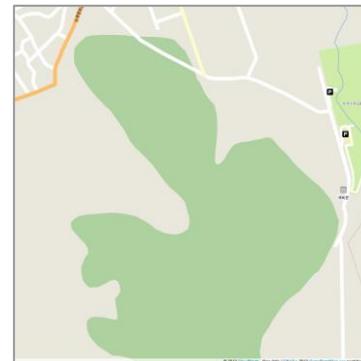
✓ **その他留意点** まち歩きの際には書き込み用の地図を印刷して配布します。また、イベント保険に加入する等も検討します。

マッピングパーティ（オープンデータ作成ワークショップ）

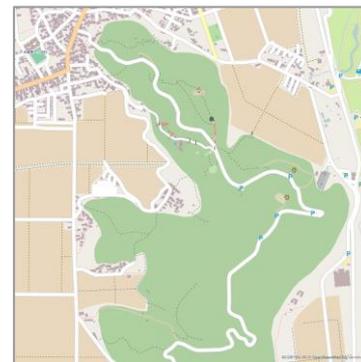
タイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

-
- | | |
|--------------|--|
| 12:00 | スタート地点に現地集合
テーマや注意事項の伝達、チーム分け自己紹介 |
| 12:30 | まち歩きスタート
(事前に用意した地図に情報を手書きで書き込む) |
| 14:30 | 屋内へ移動 |
| 15:00 | 全チームの戻りを確認、休憩
オープンストリートマップの紹介とマッピング（地図編集） |
| 17:00 | 成果発表 |
| 17:30 | クロージング・感想等 |
| 18:00 | 解散、会場片付け |
-



マッピング前



マッピング後

アイデアソン

キーワード

住民主体

課題解決

機運醸成

オープンデータ活用

アイデアソン（オープンデータ活用ワークショップ）

ワークショップの概要

アイデアソンとは、アイデアとマラソンを掛け合わせた造語で、行政の持つ課題などについて、その解決策を住民とともに考えるワークショップです。決められた時間内にアイデア出しからそのブラッシュアップまで、参加者全員で手順を踏んで進めていきます。

行政の持つ課題は様々ですが、その解決には住民自身の理解や協力が不可欠なものが多くあります。

そうした課題についてはオープンデータを初めとする客観的な事実をベースに住民と行政と一緒に考えることで相互理解が生まれ、解決のヒントが得られることがあります。



アイデアソン（オープンデータ活用ワークショップ）

ワークショップの目的・ねらい

💡 住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、住んでいる地域の課題について事実に基づいて現状を正しく把握をしたり、住民と行政が協働で課題解決に取り組むことで、自分たち自身でも行政の抱える課題の解決に参加できるという意識づくりを狙います。

💡 オープンデータの活用方法を知る

アイデアソンでは課題から考えることが重要ですが、場合によっては公開済みのオープンデータが、その解決策の裏付けとして有効な場合があります。オープンデータを実際に活用することで、地方公共団体のオープンデータの取組の狙いや市民目線での活用方法を市民が知るきっかけづくりを狙います。

💡 テクノロジーを身近に

生まれたアイデアの内容によっては、データを活用するアプリとの組み合わせで効果を発揮しそうな場合があります。そういう場合はアイデアソンに続くハッカソン*を企画し、アプリの雛型開発につなぐ場合もあります。

*ハッカソン：アイデアソンの成果などを元に実際にアプリを試作するワークショップ

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態があります。アイデアソンに詳しい講師との連携も検討します。
- アイデアソン開催に必要な、参加者向けのインプットとなる情報や文具等を準備します。

✓ **経験者との連携** アイデアソンの開催経験者との協力体制を検討します。

✓ **テーマの準備** アイデアソンの成功には適切なテーマ設定が重要です。経験者と話し合いながら課題の分野、粒度などを事前に決定します。

アイデアソン（オープンデータ活用ワークショップ）

タイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

12:00 会場準備、開場、受付開始

13:00 開始、主催者挨拶

13:15 テーマについての事前インプット

13:30 参加者自己紹介、チームわけ

13:45 作業開始 ●

16:30 成果発表

17:00 クロージング・感想等

17:30 解散、会場片付け

1. アイデア出し（発散）
2. アイデアの整理（分類・収束）
3. アイデアの発展
4. データとの紐付け、利用シーンの想定
5. 発表形式へのまとめ、など

5374.jp

キーワード

住民主体

課題解決

機運醸成

オープンデータ活用

5374.jp (オープンデータ活用ワークショップ)

ワークショップの概要

5374.jpとは、ゴミ情報のオープンデータを活用した**ごみの分別と収集日が誰でもすぐ分かるアプリケーション**です。地域のごみ問題を解決するため、シビックテックコミュニティである(一社)コード・フォー・カナザワが開発しました。

5374.jpのサイトでは、ソースコードが公開されているため、誰でも自分のまちの5374.jpを作成できることから、**ゴミ情報のオープンデータを活用した、地域課題解決ワークショップの題材**として全国で使用されています。



ワークショップの目的・ねらい

住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、住んでいる地域のごみの情報や課題について調べたり、住民同士で協力しながら必要なデータやアプリを作成することで、自分たちでテクノロジーを使って地域課題解決ができるという意識づくりを狙います。

オープンデータの活用方法を知る

ゴミ情報のオープンデータを活用することで、地方公共団体のオープンデータの取組状況や活用方法を市民が知るきっかけづくりを狙います。

テクノロジーを身近に

プログラミング経験のない人でも簡単にアプリケーションが作成ができるため、テクノロジーに対してのハードルを下げ、身近に感じられる効果を狙います。

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。5374.jpに詳しい講師との連携も検討します。
- オープンデータ取得や地域課題調査のためのパソコン・Wi-Fi環境、5374.jpの作成環境（GitHubアカウント）を準備します。

✓ **経験者との連携** 5374.jpの作成経験者との協力体制を検討します。

✓ **環境の準備** 5374.jpの作成はGitHub[※]を活用するため、GitHubアカウントを事前に作成しておくことがスムーズです。パソコンやWi-Fi環境も手配します。

5374.jp (オープンデータ活用ワークショップ)

タイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

12:00 会場準備、開場、受付開始

13:00 開始、主催者挨拶

13:15 5374.jp について解説

13:30 参加者自己紹介、チームわけ

13:45 作業開始 ●

16:30 成果発表

17:00 クロージング・感想等

17:30 解散、会場片付け

1. GitHubから「5374.jp」を作るために必要なプログラムをコピーする
2. 自分たちの地域のゴミの最新情報を集める (地方公共団体HP等)
 - ゴミの区分、ゴミの区分の収集曜日、収集センターの休止期間、ゴミの区分 (分別) 毎のゴミ種類一覧
3. 4種類のデータファイルを作成する
 - center.csv (収集センターの休止期間)
 - description.csv (ゴミの区分)
 - target.csv (ゴミ区分の対象となるゴミ種類)
 - area_days.csv (地区の収集スケジュール)
4. アプリに反映させる

Glide

キーワード

住民主体

課題解決

機運醸成

オープンデータ活用

Glide (オープンデータ活用ワークショップ)

ワークショップの概要

Glideとは、アメリカ発の**アプリケーション開発用ノーコードツール**です。基本的な機能は無料で利用でき、プログラミング経験のない人でも、Microsoft ExcelやGoogle スプレッドシートの扱い方さえ分かっていたら、豊富なテンプレートを利用して簡単にWebアプリケーションを作成することができます。

プログラミング経験のない人でも、オープンデータを使用しながら簡単にWebアプリケーションを作成できることから、**オープンデータを活用した地域課題解決ワークショップ**の題材として使用されています。



ワークショップの目的・ねらい

住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、テーマに沿った課題について調べたり、どんなアプリがあると課題解決できるかを考えながら、必要なデータを入手してアプリを作成することで、自分たちでテクノロジーを使って地域課題ができるという意識づくりを狙います。

オープンデータの活用方法を知る

テーマに沿ったオープンデータを活用することで、地方公共団体のオープンデータの取組状況や活用方法を市民が知るきっかけづくりを狙います。

テクノロジーを身近に

プログラミング経験のない人でも簡単にアプリケーションが作成ができるため、テクノロジーに対してのハードルを下げ、身近に感じられる効果を狙います。

準備のポイント

開催体制・テーマの検討、環境準備

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。Glideに詳しい講師との連携も検討します。
- テーマ（作成対象アプリケーション）をどのように決めるのか、段取りを検討します。
- オープンデータ取得や地域課題調査のためのパソコン・Wi-Fi環境、およびGlideの使用環境（アカウント）を準備します。

- ✓ **経験者との連携** Glideに詳しい講師との協力体制を検討します。
- ✓ **テーマ設定** 当日に地域課題を調査してテーマを決めるところから実施するのか、テーマを事前に決めておくのか検討します。
- ✓ **環境の準備** Glideのアカウントを事前に作成しておくことで当日がスムーズです。パソコンやWi-Fi環境も手配します。

Glide（オープンデータ活用ワークショップ）

当日のタイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

12:00	会場準備、開場、受付開始
13:00	開始、主催者挨拶
13:15	Glideについて解説 Glideを活用したアプリ事例紹介等
13:30	参加者自己紹介、アイデア出し、チームわけ
13:45	作業開始 ●
16:30	成果発表
17:00	クロージング・感想等
17:30	解散、会場片付け

1. アプリに必要なオープンデータを入手し、GoogleスプレッドシートやMicrosoft Excelに書き込む
2. アプリ上の表示用にデータに加工する
3. Glideで作成したデータを読み込む
4. 画面表示のレイアウトやデザイン等を調整する